

10 October Vol.82

*
「喜怒哀楽」は、
文芸を楽しむ方々の
活力の源を目指し
(株)ミュージック・コーポレーション
喜怒哀楽書房が
隔月発行している
情報誌です。

喜怒哀楽

詠み人応援マガジン
詩歌俳柳壇ニュース

食楽



前は、29項までをご紹介いたしました。バランスと度を越しすぎないことが大事、ということでしたが、さて、今回は……。

事窮まり勢い盛まるの人は、当にその初心を原ぬべし。功成り行満つるの士は、その末路を觀んことを要す。

(仕事が行き詰まり、形勢が悪い人は、その初心が何であつたか確認すべき。成功して満ち足りている者は、その行く末を考えた方がよい。) ただ現状にとどまらず、初心を忘れず、その先も見据えなければなりませんね。

富貴の家は宜しく寛厚なるべくも、反つて忌刻なり。是れ富貴にして、其の行いを貧賤にするなり。如何ぞ能く享けん。聡明な人は宜しく斂蔵すべくして、反つて炫耀す。是れ聡明にして、其の病を愚(蒙)にするなり。如何ぞ敗れざらん。

(地位や財産に恵まれている者は、当然、他人に対し寛容であるべきであるが、それに反して他人を妬んだり残酷なことをする。これは物に恵まれても、行いが貧しいからだ。このような

ことでどうして福を得られるだろうか。道理に明るく聡明な者は、当然、それを隠しておくべきであるが、反して才能を自慢する。才能に恵まれていても、心が貧しいからだ。このようなことでどうして失敗しないと云えようか。)

己の恵まれた境遇や才能におごらず、謙虚に生きていくことが真の良き人ということですね。卑きに居りて而後高きに登るの危きを知る。晦きに処りて而後明るきに向うの太だ露るるを知る。静を守りて而後動を好むの勞に過ぐるを知る。黙を養いて而後言の多きの躁たるを知る。

(低いところにいて、高いところに上ったときに必ず危険であると知る。暗いところにいて、明るくなった時に、出すぎてはならないとわかまえること。静観しているから動きたいだろうが、働き過ぎないようわかまえること。沈黙を守っているから、多弁になったときに騒がしくなりすぎるかも知れないとわかまえよ。) 対極にいるからこそ見える事もあらず。度を越さず、リスクや節度を考えて行動しなければなりません。

現状に甘んじ、恵まれた環境にいるからと言って胡坐をかいたりおこつてはいけません。その先のことも見据えた行動が必要ということですね。

(古川久美子)

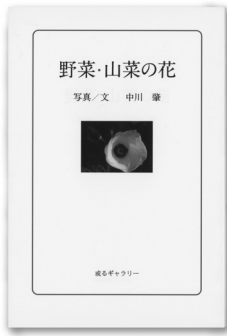
きみ句会

指導 中川 肇様 (東京都国分寺市)

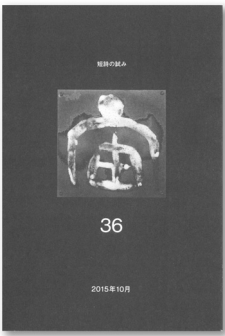
連絡先 / 〒185-0032 東京都国分寺市日吉町1-2-11
042-1322-8585

7月23日、東京の奥座敷、あきるの市五日市の田野倉邸で開催された「きみ句会」にお邪魔しました。以前は「あきるの句会」の中心メンバーとして田野倉さんの奥様、喜美好きさんがご自宅を句会場として提供していたが、奥様亡きあとは遺言に従い、夫の訓郎さんが以前とかわららずにご自宅を句会場に、名称も「きみ句会」と改め新メンバーとして研鑽を積んでいる。

冒頭は、指導にあたる中川さんの本『野菜・山菜の花』上梓を皆さんでお祝い。いつも通り、テーブルにはたくさんのご馳走が並び、まずは食べて、飲んで、腹にしかと納めて胆を据えてから句会スタート。今日の兼題は「トマ



▲野菜の花に関するプロはだしの写真とミニエッセイ+俳句、中川さんの感性がつまった本『野菜・山菜の花』



▲季刊 短詩の試み「宙36」最新刊 10月号

ト」と「かぶと虫」。5句選のうち一句を特選に選びます。

中川：いやあ見直したよ、この句会。今日はいいのがたくさんあるから15句選ぶよ。

会員：ほんとの実力はこんなもの。やればできるんです。酔っぱらってないですよね？

中川：酔っぱらってるよ。

会員：以前から「新潟から取材にくるのに変な句を出して俺に恥をかかせるなよ」と半分おどしですよ(笑)。

と、選句の間もトークの手を緩めない。披露のあとは一人ずつ順番に5句を受け持ち、その句を選んだ人の声を拾ったり、その句を採らなかった「採らざる弁」を聞いたりしながら司会を担当し会を担っていく。おとなしく黙ってなどいられない。

◎まずは特選3人の6点句より

佳子 子に届く宅配便やかぶと虫

私も、今はネットでかぶと虫を買うというのを詠もうとしたが詠めなかつた。うまく表現されている／子でも孫でもいいが、田舎に住んでいるジイちゃんバアちゃんが、かぶと虫を捕って送ってくれたと読んだ。

中川：措辞を整えるとすれば、上5が上6になってもいいから「孫に届く宅配便やかぶと虫」これいい。子より孫の方がおもしろい。

会員：私は親がネットで頼んだかぶと虫が宅配便で届いた、としか読めなかつた。

中川：一番いいようにとつてあげるのが選句。俳句のかたちがどうのこうので



▲豪胆と繊細が同居する詩と感性の人 中川肇さん

はない。流れがいいか悪いか、何をいいたいのか、それがいいかどうかで評価する。

作者：自然の中でかぶと虫を捕る子、親と一緒にデパートで買う子、今は様々。いろんな風に読んでいただいていたかった。

◎6点句

理科ノート表紙は今もかぶと虫 肇

かぶと虫は昆虫の王様。男の子の原点だと思う。クワガタではだめ。／力強く生きろ！ というメッセージも潜んでいるような句／ジャポニカ学習帳のことだと思ふ。気持ち悪いということ。昆虫が3年くらい前から採用されなくなつたが、人気も高く限定復活したというニュースを先日読んだ。

採らざる弁：小学校ではなく、中学校の教師でしたから普通のノートでした(笑)。

◎4点句

兜虫きめ手はいつもうちやりで 良江

少年の日の思い出をすばり詠んでいた。目つけ所がいい。採らざる弁：うーん、私の句です(笑)。

中川：自分の句でも知らないふりして、何か言つて役者を演じてみて。

ほろ酔ひの君の箸先トマト追ふ 佳子

視点がおもしろい。光景が鮮やかに目に浮かぶ。ましてやほろ酔ひだし。中川：「ほろ酔ひの君の箸先ミニトマト」にする。トマトのわけはない「追ふ」だと説明になる。

会員：でも、丸くて転がるものならトマトじゃなくてもいいんじゃない？

全体もほろ酔ひ気味になつてきて「お酒なの？」「もうあいたの？」と、何度か徳利に日本酒を注ぎ足す。その間にも、中川さんの容赦ない「小学校から日本語を勉強しなしておしてください」や「いい句はまぐれでできることもあるが、選句にまぐれはないから」：等の愛のムチが飛ぶ。一方、メンバーも「大丈夫、へこたれることないから。私たちが散々バカだなんだと言われてきてるけど、バカは中川さんの常套句」「バカじゃないのよ、バカなの(笑)」と受けて返す。

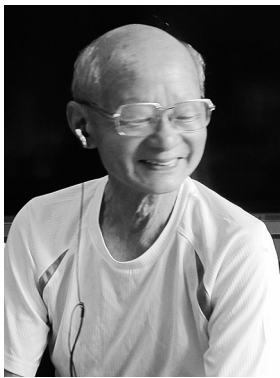
青トマト昔話をもう何度 ゆう子

青臭い時代の話は何度も聞いているが、決していやではないという感じが出ている／さっき聞いたよ、というニュースもある。

かぶと虫初恋の兎の手のひらへ 訓郎

かぶと虫を好きな子にあげる、なんともロマンチック！／郷愁がある。うーん、ういしさも十分に出ている。

笑顔礼讃西東



▲奥様の遺言で自身も俳句を始めました
田野倉さん 今日絶好調!

オスメスを教えてくれたかぶと虫 肇
オスとメスの明らかな違いを、かぶと虫と兄を通して知った。
採らざる弁…この句は6番目、次点だった(笑)。

A面もB面もなく蜘蛛の糸 和子
俳句は「自然をよく見ること」が基本だが、表も裏もない蜘蛛の糸の精緻な様をよく見て句にした。蜘蛛の糸に対してA面やB面など考えもしなかった。

中川…以前、蜘蛛の糸をレコード盤にたとえて句にしたことがあった。この句はもう僕を超えたな(笑)。

和子…はい、先生の句に上乘せしてつくりました(笑)。

包丁の切れ味試すトマトかな 訓郎
こういうふうにつきりとシンプルに詠いたい。テレビショッピングの映像が浮かんだが、トマトの特性がよく出ている。
採らざる弁…だから何なのか、と感じた。

中川…まさに実感の句。トマトの持っている繊細さと包丁の切れ味のよさとの対比。これは採らなきゃだめ。あな

まだまだ俳句が途中までしかわかってないね。

会員…そんなことないですよ。もう少しトマト本来の特性を詠んでほしいが、包丁に力点がいていて、おもしろいとは思ったが私も採らなかつた。
中川…これは明らかにトマトに焦点があたつてるよ。

少年のことは明快かぶと虫 和子

中身はわからないが、少年の発した言葉が明快でそれがかぶと虫に重なり、少年、ことば、かぶと虫が三位一体でおもしろい。少年の潔さとかぶと虫のつながりがいい。

中川…名詞だけでできている句は強い。これはいい俳句ですね。

あれあげようこれあげようの盆の入り ゆう子

この時期いろんなものがお店で売っていて、仏壇に何をあげてもてなすか気を遣う。あれあげようこれあげよう、という言葉の使い方がおもしろい。素直で気持ちのこもった句。

かぶと虫授業のさなか這い出して 訓郎

学校にもつてきたかぶと虫。隠していたのに授業中に出てきてひやひやしている様子がよくわかる。

中川…「這う」は「這ふ」だから歴史的仮名遣いだと「這ひ」となるが、口語俳句だからこれでいい。

抵抗の竿のしなりや岩魚釣 靖子

そのままなんだけど、しなり具合をうまく詠っている。



▲田野倉邸のベランダにて 一戦を終えて(笑)

中川…岩魚はどう猛で重いのはわかるが、これだと岩魚を説明している。岩魚じゃなくても成り立つ。

作者…本当のことをいうと、これ鮎釣りを見て作ったの(笑)。

最後のまとめとして、中川さんより「手前みそだが、今日もいい句会だった。指導者のいうことをハイハイとよく聞くお行儀のいい句会が多いと思うが、木戸さん聞いたでしょ?」

黒といえば白、白といえば黒、みんな楯突いてくるからね。まあ、そういうことを言わせる俺の度量がすごいかな。「それを言いたかったのね!」(笑)。



(木戸敦子)

★その他の句
万緑を満杯とせし窓辺かな
送り火の煙しみり天あおぐ
ナポリタン味の決めてはトマトかな
水中花時止まりたりかの日より
陽の温み丸ごとかじるトマトかな

★公明正大とはかくのごとしかと思う。上下の隔てなく、本音と建前もなし。あるのは食べる楽しみと、学ぶ充足感、そしてふれあう喜びだ。バカだなんだと言われながらも、皆さん毎回楽しみに集まってくるのは、おいしいものの魅力以上に、安心して言いたいことを言える心地良さを知っているから。刺激で決して「なごやか」ばかりではないかもしれないが、終始笑いにあふれ、いいものはいい、悪いものは悪い、と言いつつ合える、この和気藟々な関係性は最高だ。

高野 茂様

(新潟県・新潟市)

自分史『日々是好日』

今年6月、自分史『日々是好日』を上梓した高野茂さんにお話をお聞きしました。

ご自宅にうかがったのは、長年の夢だったというチベット巡礼の旅から帰って数週間、佐渡88カ所霊場巡礼から帰ってまだ2日後のこと。鯉が泳ぎ、端正されたお庭から丁寧な暮らしが目に与えられ、床の間には四国巡礼をした際のご朱印の掛け軸がかかり、仏壇には鬼籍に入られた先祖や親戚12名の写真立て。そして、帰国したばかりの真直で、チベットの記録と写真が既に1冊のアルバムにまとめられ、こちらが行った気になるほど鮮明にお話してくださいました。「ツアーの中では最高齢。若い人が降参した山も登るもんだから、たまげられました」と快活に笑う姿からは、85歳という年齢を忘れてしまう。

『日々是好日』をまとめようと思っ
たきっかけは？

日経新聞の「私の履歴書」に触発さ



▲現在も愛蔵として立つ築160余年の生家を表紙にした『日々是好日』



▲親しい仲間が7・5調で「いつもニコニコばかりみたい」と言うんですわ、という高野さんの笑顔

その苦労のおかげで今日がある
73歳でリタイアして12年。その後の

れたのが17年前。兄弟は家の歴史や来し方がある程度知っているが、孫たちは知らない。だから孫に遺したかった。ただ、書き遺そうという思いはあっても文章力の問題もあり(笑)、一念発起して自分史講座とエッセー講座を受講した。70年以上にもわたる日記や写真、アルバムなどの資料整理に3年を費やし、ようやく書き始めたのが平成13年。遅々とした歩みではあったが、親しい人の他界が相次ぎ、自身の入院や物忘れがひどくなったこともあり、当初の米寿記念の刊行を前倒しした。

よく諦めませんでしたね
言ったことは絶対にやるというのが信条。孫たちに大事なものはやり遂げること、と言っている手前もあつてね(笑)。東頸城郡という山間僻地に生まれ、9人兄弟の6番目。学歴のない者が学歴会社に入り、ある程度人並みに伍していくというのは、正直大変だった。電気主任技術者の国家試験に合格するために10年間、全精力をつぎ込んだ。高専科のときは戦争末期でほとんどが勤労奉仕。電気理論は数学や物理だが、サイン、コサインなんて全くわからず数学の勉強から始めた。

人生が実にすばらしい。今は朝3時に目覚め5時までは読書、5時のニュースを聞いてから田んぼ道を小一時間散歩し、五頭山の方からあがるお日様に拝み太陽に手をかざす。日中は尺八に畑に、ボランティアでやっている茶の間の大学の教授やら…。

教授業もですか！(笑)
ほとんどが高齢者だが、今は仏教について噛み砕いて伝えている。大きな字で資料を作って「お釈迦様が言うようにあらゆるものは縁で結ばれている。隣にいて挨拶もしないような情けない生き方はしないで、大丈夫かねーと、声をかけ助け合って生きていきたいと思います」とか「最近三途の川も混雑しているらしい。橋を渡らせてもらったり、高速船に乗せてもらえようがいいことをしましょう、足腰の悪い人は特にな」という具合に(笑)。

どうしてそんなにいろいろいるの？
肉にしろ魚にしろ、誰もが命をもらって生きている。それがすでに罪、だから施しをしなければ。お金がないとしても、優しい言葉をかけるとか(愛語)、日常の中でできる方法はいくらでもある。歳をとつたらそういう生き方をするべき。だからやることは無限にある。平均寿命を超えているし、自分自身はもうけの人生。こうやって好きなことができ、こんな幸せはない。その分はお返ししていかないと。

それで在家僧侶に？
18年前、インドの仏跡を僧侶と一緒に巡礼して釈迦の教えに感動して以来、仏教をもっと知りたいの思いが高じて、在家僧侶の資格をとった。今日の幸せ

は先祖のお蔭だから毎年供養しようとお盆には兄弟親族がふる里に集まり、私にわか導師となつて法要を営んでいる。法事が終わると、恒例の隠し芸や盆踊りで先祖と一緒に踊りまくっているが、これもわが一族の立派な伝統文化(笑)。

これからは？
インド、四国、中国、熊野古道、佐渡の巡礼の旅を終え、あとは米寿までに越後88カ所霊場巡りをやり遂げたい。その後は、113歳で逝つた母にしたように、盆踊りと紅白まんじゅうで送つてもらおうかな(笑)。

★「やらなきゃいけないことはどっちみちやらなきゃいけない。ならば先手必勝」の言葉に、本当にそうですと頷きながら、ギリギリにこの原稿をまとめている自身。なんだろう、この高野さんの感謝力と潔さは！釈迦の教えで一番大事だと思つているという「因果応報」、自己責任を貫いて生きたいという姿勢がそうさせるのか。先祖に感謝し、その日その日が最上、最高の「日々是好日」の実践者。そして笑顔と感謝が幸せを招くというまさにその具現者。ワハハハ笑いに刺激されつつ、終始清々しい気持ちに満たされた。(木戸敦子)



▲「毎朝、お経をあげて両親や兄弟に話しかけてるんです」と高野さん

投稿作品

※誌面の都合上、投稿作品の掲載は
 一人さま1作品、先着300名様までと
 させていただきます。何卒ご了承ください。
 ※しめぎり2015年11月16日(月)まで
 ※作品は原稿どおりに掲載しております。

川柳

- 1 九条を反対に解釈する与党 守屋高雄(岩手県)
- 2 夏の海あの日を偲ぶ土用波 藤沢健二(千葉県)
- 3 青年よギターが武器に変わるかも 山口千鶴子(東京都)
- 4 盆の入り仏壇の先祖そろい踏み 阿部徳夫(宮城県)
- 5 秋実り糖尿さん耐える秋 大橋絵代(千葉県)
- 6 人伝に聞いた褒め言葉にやる気 木村誠一(神奈川県)
- 7 首相談話の厚化粧すっぴん夏の朝で
ありたい 南喜美子(千葉県)
- 8 思う事何か一つはして見よう 松田義登(福岡県)
- 9 風評の桃は笑顔で駅を出る 鈴木義雄(福島県)
- 10 守り札第九寄り添う七十年 関本 守(新潟県)



- 11 人類史地球史からは一時よ 原 崇雄(埼玉県)
- 12 痒いなどとせいたくを言う八月忌 竹村穂夫(大阪府)
- 13 期待受け奮い立たせる空元氣 細川光子(栃木県)
- 14 この年になって戦死の父恋し 奥那於子(大阪府)
- 15 春の天ゴジラ息吹く歌舞伎町 大久保アヤ子(東京都)
- 16 新聞も合羽着てくる雨の朝 丸山芳夫(東京都)
- 17 露天風呂裸晒している平和 目黒豊光(福島県)
- 18 時間出来金のみ不足リタイヤ後 山崎一嘉(愛媛県)
- 19 ゆさぶられにわかになさわぐ羊ども 齊藤安弘(神奈川県)
- 20 自衛権重い歴史に目を閉じる 小石澤英夫(東京都)
- 21 太ったとヤセた同士が譲らない 福地義雄(沖縄県)
- 22 振り返ることなく歩いた五十年 野田明夢(新潟県)
- 23 「吹奏楽」頑張る孫の金授賞 柳澤京子(宮城県)
- 24 気楽さに馴れて呑気な八十路 西山知子(岡山県)
- 25 自分史に僕の昭和が蘇る 三宅得三(新潟県)
- 26 瑞穂の邦まるごと売るや安倍政権 長野光康(神奈川県)

俳句

- 27 色なき風石垣高き白鷺城 檜山とり子(東京都)
- 28 父の右母の左に茄子の馬 椋本望生(大阪府)
- 29 コーヒーの香りで迎え盆用意 大塚徳子(埼玉県)
- 30 オカリナの音色流る、木下閣 青木涼子(埼玉県)
- 31 終戦日たがのはづれた古兵殿 炭崎 博(滋賀県)
- 32 落蟬や地表の地獄さまよへり 三津木俊幸(千葉県)
- 33 句を杖に生きる力よ美美子の忌 竹本美美子(新潟県)
- 34 雷鳴の返すこだまや槍穂高 上村元義(神奈川県)
- 35 気がつけば庭の片隅吾亦紅 須澤重雄(長野県)
- 36 新涼や足組むヨガの息吐ける 小澤円梨(静岡県)
- 37 新しく鬼籍に入りし友の盆 津田忠彦(岡山県)
- 38 ゆるやかに昔の記憶風の盆 川嶋法子(東京都)
- 39 遠ざかる妣の面影四十雀 松尾らん(東京都)
- 40 倒木のごとに親子の昼寝かな 土谷敏雄(秋田県)
- 41 友の忌に寮歌を奏つ夜の秋 古谷 力(東京都)
- 42 被曝禍の藻に縋りつく稚貝かな 有坂馨園(福島県)
- 43 清貧と言はれてみたき瓢かな 大谷 茂(埼玉県)

- 44 炎昼や苦集滅道なる法話 佐野和彦(静岡県)
- 45 落日に恋の予感の晩夏かな 吉里ひとみ(東京都)
- 46 ピアノ鳴る薔薇のアーチの門くぐる 山崎吉晴(群馬県)
- 47 河鹿鳴く光る川面に風そよぐ 田中恵美子(山形県)
- 48 鬼灯や母の昔を知らずして 堅田秀子(東京都)
- 49 ふるさとの訛なつかし風鈴屋 松涛千鶴子(東京都)
- 50 朝顔の紺のさわだつ今朝の秋 林 克(福島県)
- 51 終戦日吾八歳の正座かな 近藤薫也(千葉県)
- 52 敬老日心ほぐさる国訛 長峰正晴(千葉県)
- 53 暑き日の睡魔襲ふや十三時 天野輝子(東京都)
- 54 一生は一幕限り蟬時雨 川口 襄(埼玉県)
- 55 盆すぎの座敷の畳拭いてをり 今井勝子(新潟県)
- 56 色づきし峰の借景秋の空 野村牟人(東京都)
- 57 なびく風濡れる頬抱く秋の情 山本理香(大阪府)
- 58 湿原に蛙の歌に蛩舞う 水落重式(新潟県)
- 59 憲法の九条の基原爆忌 濱田イサオ(福岡県)
- 60 駒草や高嶺の女王と出逢ひけり 西條公雄(埼玉県)
- 61 山道を通草とりする老女かな 湯浅暉子(石川県)



- 62 向日葵の大輪多し休耕田 大橋恒次(新潟県)
- 63 山育ち卯波さ波に見入りけり 田野倉訓郎(東京都)
- 64 心身の涼し遺言書き終へて 宮宅芳子(岡山県)
- 65 ハサミムシみつつけし丘より水平線 安部 哲(新潟県)
- 66 麦の秋泣いてばかりのネズミかな 白戸麻奈(東京都)
- 67 踊の輸入りたくなき入りたき 小林七重(新潟県)
- 68 降る日矢に大灘綺羅と鳥渡る 澤 雅子(大阪府)
- 69 星まつり老には老の願いあり 阿部幸子(宮城県)
- 70 かまはれぬことも居心地今朝の秋 青木ケン子(埼玉県)
- 71 ステテコが好き縁台の昭和かな 山本直子(大阪府)
- 72 妻と居て心足る夜の星三五 小泉和明(茨城県)
- 73 今世紀女性天下乎女郎花 緑川禎男(埼玉県)
- 74 晩鐘や軒に出を待つ踊笠 一瀬正子(埼玉県)
- 75 オカリナや影薄れ行く渡り鳥 吉村充治(埼玉県)
- 76 蕉翁の「山中問答」菊の露 山田富朗(埼玉県)
- 77 遠き日の母のもてなし団扇風 田中 昶(鳥取県)
- 78 バスガイド試験類染む夏の旅 神 一男(静岡県)
- 79 天の川百八十度を手の中に 黒石正子(埼玉県)
-
- 80 何事も感謝で生きる杜鵑草 道給一恵(埼玉県)
- 81 一坪の土やはらかに大根時く 岡野智恵子(埼玉県)
- 82 秋深く名残の茶事や友に会う 鈴木みえ(長野県)
- 83 焼たての鮎をがぶりといふ至福 湯浅芳郎(岡山県)
- 84 自在なる虚空の君や暮めぐり 堀田寿美子(北海道)
- 85 はんでん着駅前カッパも秋まつり 杉村美保子(岩手県)
- 86 葛餅や棧敷の風の心地よし 中田文子(大阪府)
- 87 名曲の流る牧舎や秋の牧 杉原明子(静岡県)
- 88 朝顔の鉢ごと抱え亡母が来る 池田 岬(埼玉県)
- 89 風そよぐ瑞穂の国の田植かな 古川正栄(千葉県)
- 90 身代りか水木の病葉水を恋う 藤井春三(埼玉県)
- 91 山村流宗家邦楽水打ちて 居原田連星(大阪府)
- 92 敗戦や命狙はれ今がある 春口蓮男(静岡県)
- 93 末弟もいつか七十路銀河濃し 寺内 侑(埼玉県)
- 94 サングラスかけて雑念払ひけり 倉田淑子(東京都)
- 95 螢火の四囲廃炉たる無人駅 加用章勝(千葉県)
- 96 自転車のはしゃぐ兄弟夏終る 浅野信廣(宮城県)
- 97 水河期の風の記憶やちんぐるま 小島岳青(新潟県)
-
- 98 音たて、自販機を出るレモン水 能條憲夫(神奈川県)
- 99 盆参り親族集う茶話楽し 花塚三郎(千葉県)
- 100 すてきれない文庫本そと横に置く 白松一良(千葉県)
- 101 埒もなき考へばかり夜の長き 佐藤儀雄(北海道)
- 102 又酒に余生をうめる良夜かな 有田俊一(埼玉県)
- 103 秋立つやあれはまだまだ先のこと 小林春雪(新潟県)
- 104 星砂や南の島の春の海 鷲谷浅子(茨城県)
- 105 教室のきざみキャベツの大袋 二瓶邦枝(埼玉県)
- 106 よそいきの服着て京の川床料理 中山日出子(大阪府)
- 107 青春の残像いくえ遠花火 岩田 信(神奈川県)
- 108 生きてゐる九条楯の少年兵 菅井文男(新潟県)
- 109 聞き澄ます蓮の開花を杜の池 磯部 力(新潟県)
- 110 旧友のまとも手術や秋暑し 坪田勝秀(鹿児島県)
- 111 本堂の床下広し蟻地獄 津布久信雄(東京都)
- 112 鈴虫の間に競いしコンサート 松前邦広(千葉県)
- 113 八月や目頭拭ふこと多し 富高くにひろ(埼玉県)
- 114 初恋の人今いずこ遠花火 岡村君枝(茨城県)
-
- 115 忘れまい八月六日九日は 羽根田明(神奈川県)
- 116 こでまりの群れや弾みし路地の風 井上氣海(広島県)
- 117 一雨に猛暑崩るる今朝の秋 鏡たか子(山形県)
- 118 綿菓子のごらめの香り秋祭り 服部八重子(東京都)
- 119 腰を下ろすいつものベンチさるすべり 松嶋光秋(東京都)
- 120 玉音放送新たな命授かりし 田野井一夫(栃木県)
- 121 潮風の香り漂う遠花火 中村和弘(愛知県)
- 122 蝉の声途切れ途切れて季節行く 針生 清(千葉県)
- 123 朝焼の農機幾千万や兄の逝く 佐藤正子(福島県)
- 124 重苦し山鳩の声姿なく 木下 精(大阪府)
- 125 団扇手に語りつきない老座敷 木村 舂(山形県)
- 126 土用波軍艦島の浮上せり 高垣勝代(大阪府)
- 127 初盆に白蘭届きし民子忌 油谷博子(兵庫県)
- 128 高階に月の径あり十三夜 高杉杜詩花(北海道)
- 129 猛暑日の更新記録体験す 田中美智子(埼玉県)
- 130 蛸や夕げの煙り今いずこ 沖 惇子(大阪府)
- 131 空蟬の出自の庭となりけり 中村康浩(福岡県)
- 132 土踏めぬ故郷はるか盆の月 柴田恵美子(北海道)



- 133 角張つて男の踊るしなやかさ
林多美子(群馬県)
- 134 秋草の萌ゆる山路に風そよぐ
滝沢敬子(東京都)
- 135 黒々と花火に浮かぶ大げやき
富所美紀子(東京都)
- 136 旅日記けふを書き終へ夜長かな
増田公代(東京都)
- 137 紫陽花や雨にぬれて麗わしい
五味田幸夫(神奈川県)
- 138 抽出しにしまいたくなるいわし雲
鈴木蝶次(宮城県)
- 139 団扇風いつしか恋の話など
大窪美代子(大阪府)
- 140 古日記めくりたくなる秋燈下
早乙女文子(埼玉県)
- 141 認知症の猫と共生晩夏光
小山羊子(新潟県)
- 142 新米に郷土新聞添へてあり
鮫島茂利(兵庫県)
- 143 毎日が原爆忌なり燼の瞳
邑橋節夫(兵庫県)
- 144 外の輪に亡き人集う盆踊
山本勝美(滋賀県)
- 145 冬めくや風が変へゆく海の色
村田吉雄(東京都)
- 146 反骨の兜太の文字や風灼くる
中野勝子(鹿児島県)
- 147 大いなる悠久の天星月夜
中川義彦(新潟県)
- 148 青田風朱鷺ゆつたりと西の空
本間ミネ(新潟県)
- 149 ペンを折り逝きし学徒や青みかん
永井俊樹(兵庫県)
- 150 ひまわりの迷路に弾む子等の声
石川郁子(埼玉県)

短歌

- 152 梅咲きぬウグイスメジロシジュウカラ
声も立てずにヒヨも来て
森 俊彦(神奈川県)
- 153 律儀にもポーナス月と顔を出し照れ
つつの孫仕草いとおし
田中豊恵(新潟県)
- 154 朝市のあかりのなかに海底の砂のいろ
もつ板魚跳ねたり
北岡 晃(兵庫県)
- 155 返事等あるはずもなき仏前に節の花
供へて黙し語らむ
渡部美代子(山形県)
- 156 積極的平和と総理いうたびにむなし
さつりの怒りこみあぐ
黒澤正行(福島県)
- 157 国分寺ありし昔の面影を残せる石岡
の町の静けき
関原幸子(東京都)
- 158 水族館プームに思ふ車椅子の我を一
周されたヘルパー嬢如何に
今井忠一(東京都)
- 159 九条は世界に誇る宝もの不戦の国是
守り抜くべし
橋本世紀男(東京都)
- 160 白髪がきれいと言はれ立ち止る若葉
光なる森の洗礼
野木宗信(奈良県)
- 161 行軍の日射病に父倒る熱中いう平成
の御世
早坂絃子(北海道)
- 162 赤トンボ物干し竿でひと休み母の歌
声透きとおること
坂元正憲(東京都)
- 163 十三度数うるオペにベッドから見上
ぐる窓はいっぱいの空
寒川靖子(香川県)
- 164 定刻に輝き動くソユーズの姿見えた
り女関さきで
高橋登志子(新潟県)

- 165 この夏の暑さ対策工面する身がまえ
きりりまず髪を結う
大鳥居牧子(東京都)
- 166 公園の頭上より降る蟬の声夏の終わ
りを惜しむが如し
矢島多恵子(東京都)
- 167 三文字のアルファベットの氾濫す何の
略語か覚えられぬまま
桑原謙一(群馬県)
- 168 盆終えてシャンプーセットに安らげば
黒髪白髪鏡のわたし
高須 孝(愛知県)
- 169 夏川の水辺より見るいたいたし原爆
ドームに夕の影落つ
山田良男(埼玉県)
- 170 千年の寺に咲きたる大木の山菜莢の
花踊るがごとし
峯岸信子(東京都)
- 171 主義主張金と権力入り乱れマスコミ
司法闇のただ闇
北澤実夫(東京都)
- 172 我的背に並びし吾子の瞳には夏の花
火が開きおり
若月理依子(新潟県)
- 173 七十年戦死者の無き国なれど祀る人
無き兵の墓あり
久本にい地(岡山県)
- 174 方代の歌の心の奥の奥しかと解くな
り作家頼もし
土屋喜雄(山梨県)
- 175 真夏日にマラソン走つて熱中症点滴
打って二日入院
新井 賢(埼玉県)
- 176 うばわれし命に手向く花束に無情の
雨の降りしきる夏
岩崎令子(大阪府)
- 177 雨の中腕組みつゝ声あげるこの胸のう
ち届けよ政に
合田浩子(茨城県)

フォトイック

(写真で一句)



(写真提供：中川肇さん)

こちらの写真を見て
詠んでいただきました。

フォトイック

- 178 歳だなあどっちへ行けば俺の家
石原 岳(群馬県)
- 179 また来たの今日も留守だと思っけど
奈倉楽甫(愛知県)
- 180 初秋や建仁寺垣新らしき
平山千江(岩手県)
- 181 振り向くやそこに故郷座り居る
星 一子(神奈川県)
- 182 新涼の散歩日和に主亡く
大阿久雅子(埼玉県)
- 183 この先の道案内はボクがする
益永克之(福岡県)
- 184 おそいわね早く行こうや日が暮るる
清まさじ(静岡県)

- 185 愛犬に先導されて夏の朝
阿部 至(埼玉県)
- 186 出世街道今にみている僕だつて
阿部澄江(宮城県)
- 187 しつかりと後方支援頼むわよ
松田重信(埼玉県)
- 188 靴音に老犬待つ西日かな
千代田俳徒(東京都)
- 189 ふり振いて「私」は「愛」を捜します
安木沢修風(新潟県)
- 190 愛犬のいとしき目つき友を待ち
内河邦久(東京都)
- 191 夕蟬や犬にもありぬ里ごころ
高崎登喜子(東京都)
- 192 のほほんと普段着のまま夏休み
福岡 悟(東京都)
- 193 ハチ公と呼んでも返事しませんよ
井上静夫(栃木県)
- 194 この先は案内します木下閣
井原毬子(東京都)
- 195 ここからはだまってるわしについてこい
藤原昭三(滋賀県)
- 196 ほらあの犬テレビでしゃべる似てるでしよ
岩村 昇(神奈川県)
- 197 この道はいつか来た道…変だワン!?
萬濃その子(神奈川県)
- 198 振り返り待つて気遣うバアの足
小山恵美子(大阪府)
- 199 生垣と石垣君のお住まいは
佐伯セツ子(香川県)
- 200 緑陰へひとすぢの道統きけり
津田吾燈人(高知県)
- 201 咬みついた犬発見のパトロール
青木日出男(群馬県)
- 202 杖の身を待ちて振向く秋うらら
堀木和子(大阪府)
- 203 何んだヨ犬と歩けば棒に当るサ
重原 昇(新潟県)
- 204 秋刀魚焼く遠き日の母シロも居て
井田由利子(宮城県)
- 205 徘徊の犬に声かけ残暑行く
片山茂子(埼玉県)
- 206 一歩一歩犬の笑顔や秋灯
中嶋清子(佐賀県)
- 207 ばかやろうハート・ブレイク夕焼けて
有田裕子(北海道)
- 208 古里へ愛犬だけがお出迎え
近藤富夫(東京都)
- 209 気まぐれの主外れしかこぼれ萩
菅原キイ子(宮城県)
- 210 炎天下見返り美犬の四肢の脹り
梶 鴻風(北海道)
- 211 振りむけば君と歩んだ狗尾草
勝田久美(大阪府)
- 212 お達者でそれではさらばオレ行くよ
藤橋一葉(新潟県)
- 213 疲れたるもう少しだよ頑張りな
石尾曠朗(東京都)
- 214 もういくよはやくおいでよ散歩道
河野静子(埼玉県)
- 215 まだだなー待つているからゆつくりな
中林恵子(大阪府)
- 216 愛犬の見送りは常ここまでよ
堀井 和(神奈川県)
- 217 はやく行こう愛犬が呼ぶ日短か
中澤寿美(神奈川県)
- 218 色なき風犬にも哲学の道ありぬ
鈴木岑夫(千葉県)
- 219 墓参途次犬を待たせる老の足
村山徳英(埼玉県)
- 220 もう少し行ってみようか抜け道だ
高柳閑雲(愛知県)
- 221 母の背が消えた真夏のセピア色
濱崎祥子(鹿児島県)
- 222 この俺もソフトバンクに挑戦だ
仁藤ひろじ(埼玉県)
- 223 夏の犬籬に足止め振り返る
浦橋克行(兵庫県)
- 224 何ですかちよつと急いでもすのやが
増本和子(大阪府)
- 225 若葉風早くおいでとしっぽ振る
浅海和代(東京都)
- 226 家の主まだ帰つてこないどうしたの
岩崎政弘(岡山県)
- 227 越後へとつなく道だよ蟬時雨
杉浦俊雄(静岡県)
- 228 ひとりワン哲学の路秋うらら
北野耕兵(千葉県)
- 229 野犬だけどバッチリ撮ってハイポーズ
和崎治人(山口県)
- 230 番犬で飼つたつもりが人に慣れ
森 恒雄(愛知県)
- 231 秋麗ついて来るなと道をしへ
有島和子(東京都)
- 232 もうちよつとこの道でいついて来て
成島哲子(東京都)
- 233 この辺で戻るとするか秋の暮
長谷川正(東京都)
- 234 夕暮れや犬が西向けあ尾は東
高原正幸(福井県)
- 235 青葉闇これより先は謎の道
倉沢ひとみ(静岡県)
- 236 早く来て言はれ今日また散歩道
本間 進(新潟県)
- 237 近道をさせていたたく放生会
佐藤 信(神奈川県)
- 238 左に岩右に竹あり四面楚歌
大木和男(東京都)

❖❖❖❖❖❖

2 回目のフォトイックにいただいた投句は、前回よりもアップ！そんな発想をするとは…！なるほど、座布団3枚!! と読みながら唸ったり、感心したりと驚きの連続。皆さまの柔軟さに脱帽です。

次回は、元「青玄」主幹の伊丹三樹彦さんの写真。「地方文化興隆の一助になるならば」と、使用を快諾くださいました。ますますイメージションが喚起されますね。ありがとうございます。

● 俳句・川柳募集!!



(写真提供:伊丹三樹彦さん)

右の写真から、自由にイメージし17文字(俳句か川柳で表現してください。1枚の写真から想起される世界は無限大です。応募はアンケートハガキ投稿欄にて。ユニークなイック(句)をお待ちしております!

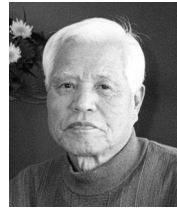


8月号の 心に残った作品

「投稿作品で心に残ったものは？」の問いに、たくさんの回答をお寄せ頂きありがとうございました!その中で特に多くの評価を集めた作品と、それを選んだ理由の一部をご紹介します。

◎俳句部門大賞 112 日焼けして大きな夢を語りけり

野木宗信(奈良県)



野木宗信様

・「日焼け」と「大きな夢」の取合せが面白い。佐野和彦(静岡県)・「日焼顔で夢を語る」で読み手に色々な想像をさせる。山崎吉晴(群馬県)・爺ちゃん子で甘えん坊だった孫がずい分逞しくなつてオリンピック(ワールドカップ?)に出ると云う。井上静夫(栃木県)・成長した孫の話がまだ幼く可愛い。木下精(大阪府)・夏休みに会った孫の頼もしさに共感。倉沢ひとみ(静岡県)ほか

【自句自解】

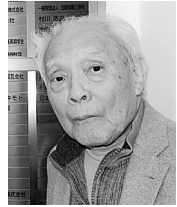
我が家は家族一同(五名)大のプロ野球特に阪神タイガースのファン。息子夫婦は阪神百貨店勤務。孫の高二生は、現在頑張っている藤浪投手が先輩であり大のファン、娘孫も大ファン、鳥谷選手をキラーキヤー応援している。私も八十才のオールドファンで、昔の吉田監督時代から若林、土井垣、藤村選手の大活躍時代のファンである。というわけで、私、家族友人がタイガースファンばかり。日本一を夢見ている。ハングリー精神で優勝へと花を咲かせて欲しい。

◎短歌部門大賞 144 両陛下パラオペリリユー島に白菊を 捧げ給へる姿うやうやし

今井忠一(東京都)

・孫達にも伝えたい命の尊さを大事にしたいと思います。大鳥居牧子(東京都)

・両陛下どうぞ御無理をなさらないで。暑い折、私は二歳上、自分にもいたい高須 孝(愛知県)・田中 昶(鳥取県)



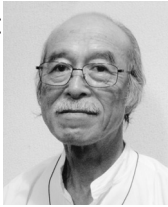
今井忠一様

【自句自解】
両陛下がパラオペリリユー島に白菊を捧げる御姿の新聞記事を何人の国民が目にも留めたことであろうか。両陛下が国民を代表して、はるかペリリユー島にお出かけになると云うことは、大変嬉しい事であるまいか。

私は、この写真を見て、その御姿に感激し手を合わせた。手に持たれた白菊が美しく神々しいものと感じ一句浮んだ次第である。九十四歳になる私は、新聞記事からネタを探して歌を詠むのが唯一の楽しみであり、元気の素である。

◎川柳部門大賞 167 親父の背を見せず育てた妻の勝ち

関本 守(新潟県)



関本 守様

・親父・妻のかけあい。内河邦久(東京都)・昔を思い出す言葉使いがとてもよい。峯岸信子(東京都)・内助の功をユーモラスに表現している。三宅得三(新潟県)

【自句自解】

「反面教師」の例えに「親の背」が良く使われます。…良くも悪くも。酒は飲

む、パチンコはする、…呑む・打つ、流石にもう一つはご法度ですね。昔の親父は自分の働き塩梅と宴席の引き際に心いたし、決してでしゃばらない、静かに自分の分を守ったものだ。…粋なお年寄りから聴いて何十年経ったかね。…実夫の背はどうであつたか見て置けばよかつた、悔やまれます。…自分の「背中」は見れないし…古希も通り過ぎ、川柳のような風景を思い描いて、自問自答している昨今です。

◎フォトイック部門大賞 207 願い事ばかり多くてつかれたわ



石尾曠師朗様

・人間の勝手さに思わず笑つてしまってます。目黒豊光(福島県)・石仏のブーたれている表情を想像しました。小石澤英夫(東京都)・本当にそう思います。北野耕兵(千葉県)

【自句自解】

私は好きでよく古寺古塔を巡ります。そのおりよく見かけるのが境内や路傍に並んでいる石仏です。如来様あり、菩薩様あり、羅漢様たちです。参拝の際には賽銭に余るほどの願いを頼みます。いわく「無病息災、家内(愚妻?)安全、家族健康、年金確実、安楽往生わが国平和等々般若心経より短く、内容の濃い「願」ですから仏様はきつと「少し賽銭が足りないのでは?」と苦笑しておられるのではないかと申し訳なく思っています。

◎俳句 12 ラムネ抜く拳で涙拭ふ子へ

一瀬正子(埼玉県)

・つい叱つてしまった母親と幼い男の子の心情を思う。高崎登喜子(東京都)・「拳で涙拭ふ子」小学校高学年か中学生か?そんな年頃の複雑な気持ちとラムネを抜いてさりげなく慰める母親の気持ちの間接的に表れている。萬濃その子(神奈川県)・ドラマがある。有田裕子(北海道)・ラムネを見てあわてて泣き止む子。手で涙を拭う。その情景をとらえ、端的な表現がよい。吉村充治(埼玉県)・やさしい心が簡潔に表現されています。湯浅芳郎(岡山県)

【短歌】

157 平和維持のためにと戦争への道開く
憲法解釈無理やり変えて
桑原謙一(群馬県)

・その通り。黒澤正行(福島県)・挑発的なテロに屈して平和憲法を曲げてはならない! 居原田連星(大阪府)

【川柳】

184 茶髪の子鴨居にだけはする御辞儀
山崎一嘉(愛媛県)

・鴨居の公德心。西條公雄(埼玉県)・現代児が古い家には高すぎる。近藤富夫(東京都)・全く背だけ伸びちゃって。鏡たか子(山形県)

【フォトイック】

194 仏とて悩みありなんご時勢に
山田楽山(埼玉県)

・騒乱の今仏様もごもつとと。木村舳(山形県)・人の悩みも時代がかわり様々。さて…!ほとけさまの気もちがよくわかりました。小林敬幸(東京都) ※今後ふるってご投稿をお願いいたします!

A Q U E S T I O N N A I R E

前回のアンケート

Q: 運動会で好きだった競技は何ですか?

※紙幅の関係上、すべてのお答えを掲載できません
ことをお詫び
申し上げます。



★徒競走



- 炭崎 博(滋賀県)
- 高崎登喜子(東京都)
- 津田吾燈人(高知県)
- 阿部幸子(宮城県)
- 鈴木みえ(長野県)
- 浅野信廣(宮城県)
- 服部八重子(東京都)ほか
- 重原 昇(新潟県)
- 花塚三郎(千葉県)
- 針生 清(千葉県)ほか
- 藤沢健二(千葉県)
- 短距離は得意でした
- ほったの肉が激しく上下するほど一生懸命に走った
- 五十米走。今度こそ今度こそでいっもどん尻
- 松田重信(埼玉県)
- 小学生六年生 短・中距離、高校生長距離、とも選手でした
- 大阿久雅子(埼玉県)
- 内河邦久(東京都)
- 息子が幼稚園の時、父兄先生方のリレーでアンカーを務め、息子の前で三人抜きを演じ優勝した事を今でも夢に見ます
- 仁藤ひろじ(埼玉県)

★騎馬戦



- 三等以内胸に入賞リボンを付け誇らし顔であった
- 菅井文男(新潟県)
- 長距離
- 福岡 悟(東京都)
- 若い時は短距離の選手でした
- 鏡たか子(山形県)

★騎馬戦

- 上村元義(神奈川県)
- 津田忠彦(岡山県)
- 阿部 至(埼玉県)
- 佐野和彦(静岡県)
- 橋本世紀男(東京都)ほか
- 女子は観るだけだったから
- 吉里ひとみ(東京都)
- 中林恵子(大阪府)ほか
- 騎馬戦が一番楽しく勇ましくてみている者もハッ!とする躍動感
- 須澤重雄(長野県)
- 親子で出来る競技やゲーム
- 野木宗信(奈良県)
- いくつも帽子をとり、楽しい思い出があります
- 石原 岳(群馬県)
- 団体戦から一騎打ちのトーナメント戦に残るのが得意
- 齊藤安弘(神奈川県)
- 昔も今も運動会の花形
- 吉村充治(埼玉県)

からだが頑丈だったのでいつも私が馬で突っ込んで戦った

神 一男(静岡県)

寺内 信(埼玉県)

「騎馬戦と棒倒し」時代ですかね

寺内 信(埼玉県)

スリルがありました

北野耕兵(千葉県)

小物だったのでいつも乗り役。そのせいか今も競馬が趣味です

杉浦俊雄(静岡県)

棒倒し

奈倉崇甫(愛知県)

海軍で棒倒し

男ですもの「棒たおし」「騎馬戦」

田野倉訓郎(東京都)

子のみの棒倒し

山田楽山(埼玉県)

棒倒し(旗取り)競争 敵陣の城を倒すような緊張と迫力。旗を取ったときの痛快さ

邑橋節夫(兵庫県)

家族対抗リレー両親、兄弟、姉妹。学年(代表小一〜中三)リレーもあった

勝田久美(大阪府)

対抗リレーはいつも出場していた

坂元正憲(東京都)

バトンを受けることが楽しみでした

黒岩正子(埼玉県)

鈍足でもつばら応援でした

堀田寿美子(北海道)

紅白、学年対抗リレー

白松一良(千葉県)

何時もスタートをしていました。私達3兄弟が大活躍

井上氣海(広島県)

初めて選手になった時、父が早朝からバトンの受け渡しの練習をさせてくれた

増本和子(大阪府)

クラス対抗や部活対抗のリレーですネ!!

和崎治人(山口県)

アンカー大好き

森 恒雄(愛知県)



網引き

岩村 昇(神奈川県)

網引き

高橋登志子(新潟県)

緑川禎男(埼玉県)

高柳閑雲(愛知県)

久本に地(岡山県)ほか

A Q U E S T I O N N A I R E

・単純な和の合体作業

津布久信雄(東京都)

・みんなで力と心を合わせるから

久本にい地(岡山県)

・私がいるチームはいつも勝ったことがありません。それでも好き

山口千鶴子(東京都)

・走るのがおそくてだめだったのでこれしかなかった

井原毬子(東京都)

・みんなが一体となって力を合わせる感覚が好きでした。

一瀬正子(埼玉県)



★玉入れ

・玉入れ

青木涼子(埼玉県)

天野輝子(東京都)

藤原昭三(滋賀県)

南喜美子(千葉県)

松田義登(福岡県)ほか

・紅白玉入れ(個人差が現れず)

小泉和明(茨城県)

・運動がいまいちだったので拾っては投げだけの玉入れが好き

有島和子(東京都)

★ダンス

・ダンス

平山千江(岩手県)

・「スクエアダンス」8人が手をつないで四角形を作り、3拍子の音楽に合わせてダンスをした

萬濃その子(神奈川県)

・女子のダンス、先生の声のムチと生徒の努力で見事

奥那於子(大阪府)

・輪になって皆で踊るダンス

本間英樹(新潟県)

・「フオークダンス」足が遅く、走ったり競ったりするのはとても苦手で嫌でした

増田公代(東京都)

★パン喰い競争

・パン喰い競争

中川 肇(東京都)

北岡 晃(兵庫県)

・走るのがおそくてもよいパン喰い競争がたのしかったです

松尾正一(岩手県)

・昭和30年代頃は丸いあんパンを糸で吊るして早く口にくわえてゴールする競技がありました。食気の心理を良くとらえた競技でした

中村和弘(愛知県)

★借り物競争

・借り物競争

川嶋法子(東京都)

土谷敏雄(秋田県)

松涛千鶴子(東京都)

・走れなかった自分：借り物競争が楽しい思い出

堅田秀子(東京都)

・足が遅かったので運に賭けただけ

木村誠一(神奈川県)

・見るのも面白いけど、借物のアイデアを考えるのがたのしい

中澤寿美(神奈川県)

★障害物競争

・障害物競争

黒澤正行(福島県)

水落重武(新潟県)

倉沢ひとみ(静岡県)ほか

・知恵を働かせての追い抜く瞬間

有坂馨園(福島県)

・ごまかしはしよりながら走れた

石尾曠師朗(東京都)

・走らなければ負ける子に勝つ事が出来た

木下 精(大阪府)

・足の早い人の空けたスキマをすりぬけて一等になる

井上静夫(栃木県)

・足が速い遅いだけでなく番狂わせが楽しめる

小林七重(新潟県)

・組体操

林 玉子(長野県)

・小柄だったので8年間は常に一番上に立っていました。(60年前のことです。)

中村康浩(福岡県)

★応援合戦

・応援合戦

阿部徳夫(宮城県)

・徒競争も玉入れもつな引きも苦手。せめてのども裂けよと声を出しました

若月理依子(新潟県)

・手が早い為仕度が早くでき掃除競争は大体トップ

檜山とり子(東京都)

・運動神経がなくて：家族と一緒にのお昼が楽しかったです

大橋絵代(千葉県)

・仮装行列(清水次郎長)等

小澤円梨(静岡県)

・フオークダンス

湯浅芳郎(岡山県)



・運動会は大嫌いでした。祖父が卵を御飯にかけて「二等賞になれ!!」がプレッシャー

松尾らん(東京都)

・小学校時代は相撲の選手

古谷 力(東京都)

・なわ飛び

清まさじ(静岡県)

・百足競争。みんなで声を合わせて、もつれない様一生懸命練習して楽しかった

関原幸子(東京都)

・一番最後の大玉ころがし

山本理香(大阪府)

・おゆうぎが大好き。手足がしなやかと先生もお母さんもほめてくれた

佐伯セツ子(香川県)

・マ스ゲーム

堀木和子(大阪府)

・借り物競争

中嶋清子(佐賀県)

・スプリンレース。6年生の運動会で1番でした

道給一恵(埼玉県)

・暗算競争

佐藤儀雄(北海道)

・専ら応援席温めます

佐藤正子(福島県)

・若い頃はタルまわし

林多み子(群馬県)

・運動会自体が嫌いでした。むき出しの闘争心のようなものが平穏な生活を乱しているようで...

長谷川正(東京都)

・着せ替え競争

中野勝子(鹿児島県)ほか

・強いていえば：マラソン。記録は平凡ながら忍耐強い性格だから

大橋恒次(新潟県)

・徒歩競争 山の学校の学年一位のメダルを何回もいただいた

山崎吉晴(群馬県)

the Voice

8月号へお寄せいただいたお声、ほんの一部ですがご紹介します！皆様の温かい感想、親身なアドバイスで情報誌「喜怒哀楽」がつけられています。今号へのお声も、お待ちしております。

- ・ 菜根譚 26 項も耳に沁みる思いを強く涙しました。人生バランスが大事。只今からでも。
- ・ 「さき句会」講師の講評がとても優しく、的を射ていて大変勉強になりました。
- ・ 朝倉安都子さんのお話で「すべての時が詩になる美しい時」が印象に残りました。すべての時を五・七・五に…挑戦してみます。
- ・ 投稿作品には人それぞれいろいろな人生の体験などが詠まれ私の心の中に感じるものが沢山あります。喜怒哀楽誌もそれぞれの人生の思い出の歴史です。
 - ・ フォトイックの1回目が掲載され、楽しみが増えました。さまざまの視点からの作品があり勉強になります。
 - ・ アンケートはやはり短詩をやる人ならではの面白さ。毎号感心しきり。
 - ・ 「夏休みの思い出」も人それぞれに、いちいち首肯した、愉快愉快。
 - ・ 「新潟ぶらり」「にいがた文化の記憶館便り」など未知の新潟の情報も楽しんでいます。
 - ・ 「幕末の三筆」書道の菱湖の字が公用標準書体に採用されたことを初めて知りました。
 - ・ 「潜水艦トマト」何？読んで納得。わが菜園のミニトマト、さっそく実験。沈んだ！
 - ・ 「トクさんのこと」ちょっと変わったエッセイで印象に残りました。
 - ・ 「スタッフの一言」お仕事をされている方々の日常をかいま見られてうれしい。
- ・ 疲労感を覚えた時ふと手に取り目を通しますと心身を涼しくしてくれます。ありがとう。
- ・ 俳句を始めてまだ半年。喜怒哀楽が届いて読ませて頂いている時が一番充実しています。すばらしい皆様の作品に私も早く近づきたいと思っております。

新潟ぶらり

★峰村醸造―沼垂「醸す」地区



峰村醸造 直売店
〒950-0084 新潟市中央区明石2-3-44
025-250-5280
営業時間 11時～18時

秋晴れの、透き通った青空。蔵の漆喰壁が真っ白な光を反射している。入口の「醸す」と記されたのれんが、爽やかな風に翻る。

新潟市中央区沼垂地区、国道七号線沿いにある峰村醸造は、今年で百十年を迎える味噌蔵。国道七号は元々粟ノ木川で、原料の調達の方がよかつたことから、当地区は発酵のまちとして栄えてきた。時代が移り変わり、醸造蔵が減っていくなか、「醸す」地区としてさらに新しく、注目されている中心のひとつが、峰村醸造である。

味噌蔵の見学と、直売所での試食（味噌や味噌漬など）が可能で、営業開始時刻よりも前から駐車場待つ方の姿も。海外のお客様も多いとか。味噌漬は好みに分かれるようだが、味噌汁は海外の方にも人気だそう。



▲最左が8年寝かせた味噌。真っ黒。「チーズにつけたら美味しそうですね」とお伝えしたら、「お酒を飲まれる方に好評です！」味噌試食後は、出汁を入れて味噌汁に。味噌漬の試食では、ごはんも盛っていただける。

味噌の「噌」の字は、味噌以外には使用されない。「噌」はかまびすしい・賑やかという意味で、つまり味噌とは味が賑やかなるものという意味だと教わる。この素晴らしい食品、かつて空調設備のない時代は自然の条件が整わないと完成しないものだった（三〇〜三三度が一か月以上ないとできない。また暑すぎてもだめ）。二年もかかる味噌造りがうまくいくかどうかは神頼み…ということで、当時は近くにある蒲原神社の御託宣を頼りに味噌の増減を調整していたという（これが相当当たったらしい）。歴史を物語るように、味噌蔵の梁は常在菌で白くなっていた。

「伝える」よりも「自ら感じて」ほしいと話されたスタッフの木龍さん。確かに五感がいそがしい。味噌のいい香り。舌で味わう旨み。旨みは、菌の力を借りて、いいものにする。醸すことで生み出される。「醸す」というのは、昔の良い物を今の方に伝わる様に変化させる意味もあります。食品だけでなく、時間も、文化も」という言葉が、香りと一緒に深くしみこんでいった。（菅真理子）

にいがた
文化の記憶館
便り(4)

岡倉天心とにいがたの画家

秋岡 啓子

明治初めの急激な西洋化に対抗し、日本の伝統美術の再興を唱えたのが岡倉天心（本名寛三、1863～1913年）で、岡倉は「日本近代美術の父」といわれています。現在、当館で開催中の企画展示「岡倉天心とにいがたの画家―小山正太郎、尾竹兄弟、小林古径―」は、その岡倉と関わりの深かった新潟県出身の画家の業績を紹介しています（11月29日まで）。

岡倉と明治の美術界を二分した実力者が、長岡市出身の洋画家・小山正太郎（1857～1916年）です。小山は、日本で最初にできた官立の美術教育機関「工部美術学校」で西洋美術を学びました。カリキュラムは「画学科」と「彫刻科」の二科で、政府の欧化政策に従って、日本画や木彫は含まれませんでした。

こうした風潮を変えたのが、東京大学講師のフェノロサと文部省にいた岡倉天心です。彼らは、明治初期の廃仏毀釈運動で打ち捨てられていた寺社の宝物などを調査し、伝統美術の保護を訴えました。

日本美術が再評価される機運と政府の財政難が重なり、工部美術学校は1883年に廃校となりました。1889（明治22）年、フェノロサと岡倉の尽力によって「東京美術学校」が開校しました。ここでは日本画と木彫が教えられ、工部美術学校とは対照的に西洋美術の授業は行われませんでした。

一方、小山は画塾「不問舎」を開き、洋画家の育成に力を注ぎました。また東京高等師範学校（現在の筑波大学）で教壇に立ち、洋画教育の普及を図りました。

1898（明治31）年、岡倉は帝国博物館の人事をめぐる紛争に巻き込まれ、東京美術学校校長の職を追われます。このとき岡倉を慕って美術学校を辞職したのが、横山

大観らの岡倉の弟子でした。岡倉が、大学の上に大学院があるように美術学校の上に研究団体が必要であるとの考えから、同年に橋本雅邦や大観らと設立したのが「日本美術院」です。

岡倉に才能を認められた新潟の日本画家が、尾竹兄弟―竹坡（1878～1936年）、國観（1880～1945年）―と小林古径（1883～1957年）です。

尾竹兄弟は、生活の糧を得るため、挿絵を描く一方、文展（現在の日展）で相次いで最優秀賞を重ねる人気作家でした。岡倉は彼らの才能を認めながらも、挿絵描きなどで身につけた技を捨て、古典に立ち返るように戒めたといえます。古典を大切にしつつも日本画の革新を図ろうとする天心の理想と、尾竹兄弟の描くものとは異なっていたのです。

1907（明治40）年、岡倉が新しい日本画を目指して「国画玉成会」を結成すると、共鳴した竹坡・國観も加わります。しかし翌年、国画玉成会の審査員指名にあたり、岡倉が安田靉彦を選んだことに二人は強く反発し、会を脱退しました。

小林古径（上越市出身）も岡倉に見いだされた一人です。1909（明治42）年、岡倉は、翌年ロンドンで開催される日英博覧会の出品作《加賀鳶》の制作を古径に依頼します。このとき岡倉は、題材が江戸の風俗だから浮世絵などを考えてはだめ。平安時代末期に成立した《信貴山縁起》くらいまで遡って標準をおいてみよ、と助言しました。

この教えは古径の一生の信条となり、のちに大和絵などの古典を突き詰めて研究した上で、近代的な感覚を融合させた「新古典主義」の作風を確立しました。その代表作が《髪》（1931年、永青文庫蔵、重要文化財）です。



▲尾竹竹坡



▲尾竹國観



▲小林古径



▲小山正太郎



▲岡倉天心

企画展示情報

「岡倉天心とにいがたの画家」

- 会期：11月29日(日)まで開催。午前10時～午後6時
- 休館日：月曜休館（ただし、10/12、11/23は開館）、10/13(火)、11/24(火)
- 10/30(金)14時から館長講演「近代日本美術とにいがたの画家」、毎月第4土曜日14時から解説会があります。
- お問い合わせは TEL 025(250)7171

4月号からの新コーナー「食楽句楽のすすめ」の執筆者・岩田桂さんは、岐阜県生まれ、新潟市在住の元大手企業の企画マン。畑を耕し、俳句の主宰をつとめ「食楽句楽」を実践しつつ人生のセカンドステージを満喫されています。食と俳句とのコラボレーション、当意即妙のエッセイをご賞味ください。

仲秋のビアガーデン

岩田 桂

ビアガーデンは夏の季語です。開放感があつて、冷えたビールがひときわおいしい庶民の楽園です。一九五三年に大阪の梅田の「大阪第二生命ビル」が発祥の夜の帳の飲み屋です。そこから全国に泡が飛びだした。

その楽園に探検隊が突入しました。それも九月九日の仲秋の名月の夕方です。場所は新潟のグランドホテルです。

「あのなあ、ビアガーデンは夏に行くところで、お月見に行くところではないぞ」という世間の冷たい目も批判もなんのその、男女十二名のかぶき者が参加しました。

探検隊はすでに咽をぐびぐびさせながら一気に昇降機に乗り込みます。屋上に到着して昇降機のドアが開くと、「いらっしやいませ!」というガーデンボーイが手招きしながら、会場へと案内してくれます。アルバイトにしてはよく訓練されている若者たちである。

まずは入り口の関所で通過券(五千五百円)を渡すと、やつと正式の客と認められます。

ビアガーデン関所に札を渡すより

おお、これが、天空のテラスと言うビールの楽園なのか。しかも開園時間は五時だが、すでにパイプ製の丸テーブルと椅子では、ぐびぐびが始まっているではないか。早引きのサラリーマンや女子会らしきグループがすでに陣取っているではないか。

信濃川の対岸の景色は、夕暮れ間近のネオンがぼつぼつと灯り始めているではないか。そんな「ないか、ないか」の逸る気持ちを抑える探検隊です。

「お客さん、ビールは飲み放題です!」

「ジョッキはおひとり、一個です!」

「ビールのおかわりは、その専用のジョッキでお願いします!」

「お料理は、ステーキ、蟹、枝豆、乾き物等とホテルの自慢のメニューです!」

「ビュッフェ方式で、ご自由にお食べください!」とアルバイトの学生にしては熟練している対応です。ジョッキの転売や横流しは、この業界では厳禁です。うむ、うむ……

説明の間も惜しむように十二名の月見客は、居場所を確保するなり一斉に散らばり、お目当ての獲物のかき集めに奔走します。

大ジョッキを右手に、ステーキ三切れの皿を左手にと忙しくテーブルに置いては、また料理を迎えにゆく。まるで働き蜂のように、十二名が巣に獲物を運んでくる。

忙しさと勇敢さ、がめつき、破廉恥には素性と本能丸出しです。でもいいじゃないか、今日は仲秋の名月だから、と訳の分からない傲をとばすボク等です。さあ、皆さん、では、改めて乾杯しましょう、と探検隊長のガッツポーズのジョッキが高々と挙がります。

ビアガーデン腰に手をおき乾杯す

こうなると籠が外れたように、ボクらは冷えたビールをグビグビとやります。ただし三グビくらいでは、まだ口中は冷えません。七グビを越えるるとにわかになお、この冷え冷えがたまらないなあ」と、ぶわーと一息を吐き出すことに到達します。これを「グビグビの絶頂感」と言います。

さらにビールがグビグビと咽を過ぎると、出番を待っていた前歯と奥歯が黙っています。ソーセージ、蟹の身、ステーキ、鶏のから揚げ、チーズ、イカのリングフライ、枝豆などを次々に迎え撃つてくれます。この律儀さが実にうれしい。懸命に美味しい獲物を上下運動して噛み砕いてくれるのが実に頼もしい。

そして口中が脂だらけになれば、即座にそれをすかさずグビグビで流し込みます。もう必死です。



一心不乱、唯我独尊、喜怒哀楽、意気揚々。しかも善男善女みな同じ激情状態です。

このガツガツ、グビグビ、キョロキョロの連続作業時間、およそ小一時間で一区切りつきます。そしてやがてジョッキの重さとぶわぶわ、冷たさが身に沁みて、はたと我にかえります。どことなく濡れている自分に気が付きます。

何処となく濡れてをるなりビアガーデン

そういえばボク達は、月見にきたんだよな〜と、ぼつり。欲情と快感で一息ついたところで、十二名はパイプ製の椅子に座りながらおもむろに空を見上げます。

さびしさもちよびり秋のビアガーデン

今日の探検の半分の目的は達成したが、肝心のお月様にはお会いしていないぞ、とリーダーが東の空を指差す。「そうだなあ〜と全員がうつろな顔をそちらに向けます。

そのお月さまは、信濃川の向こう岸のビルの谷間から、「こんばんは」とほのかな赤ら顔を見せてくれます。おお、これが仲秋の名月か。日本人が古来から愛でて止まない名月か。

そう言われればそんな気持ちから分らないでもないなあ。ならば名月に向かって狼みたいに遠吠しなくなるなあ(まさか)。まあまあ、取りあえず名月に向かってジョッキで乾杯とするか。

しかし清らかな仲秋の名月を愛でるには、ボク達はお腹が膨れすぎている。俗化している。風情を味わえるような観月隊ではない(恥ずかしい)。月側から反省しなさい、君たち、とお叱りを受けても仕方ない。

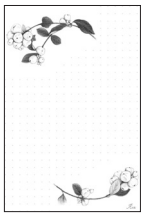
でもまあいいか。新潟の仲秋の名月とビアガーデンで出会えたんだ。生涯のうちでこのような偶然はめったにないから、ラッキーラッキーだもんね。一期一会つてこんなことを言うんだよね。それにしても天空の秋のビアガーデンつて、どことなく心残りがあります。

天空のテラス灯りやビアガーデン

オリジナルポストカード「秋」一新しました!

新潟県五泉市在住、浅野利恵さんの手によるボタニカルアートの当社オリジナルポストカード。今回の秋バージョンより作品を一新しました。ボタニカルアートとは、植物の姿を正確で細密に描く植物図鑑のための絵画のこと。従来のものより、絵をひと回り大きく配置。素敵な作品揃いですので、秋の便りにぜひご活用ください。

今回同封したのは「ツルリンドウ」! お気に召した方は、同封のアンケート用紙にご希望セット数を明記のうえ、**必要金額分の切手を同封のうえ封書にてお申込みください。(1組8枚入り500円)**



ツルリンドウ、ヒメリング、ハクチョウソウ、ウインターコスモス、ホオズキ、ヒペリカム、白桃、シンフォリカルポス

2016年石巻圏カレンダー予約受付中!

「消えゆく古い家並み」をライフワークとして描き続けている石巻出身の画家、浅井元義氏。氏のスケッチ画が2016年カレンダーとなり、現在予約受付中です。東日本大震災により、失われた懐かしい石巻の風景を、いつまでも心に残してほしいという願いを込めたカレンダーです。

※チラシを同封しておりますので、ご希望の方は予約注文書にてお申し込みください。数量限定ですのでご予約はお早めに。

第6回良寛・国上寺全国俳句大会

秋晴れの秋分の日9月23日、良寛さまの国上寺(新潟県燕市)で第6回良寛・国上寺全国俳句大会が開催されました。吟行後は、午後1時30分から句会開始。選者の「銀化」中原道夫主宰による事前応募句の大賞・入選・佳作の選評が行われました。出色は事前応募句が昨年より100句増え、受賞者がほぼ出席したこと。続いて吟行句(囁目2句)の選評が行われ、特選は今井誠一、恩田富太の両名でした。



▲大賞の新井竜才さん

最後に、山田住職より「来年の第7回は9月22日を予定しています。来年も良寛ゆかりの国上寺で俳句を愉しんでいただきたい」との閉会挨拶があり、記念撮影をしてお開きとなりました。

●事前募集句

【大賞】	白靴の先に神経尖りけり	新井 竜才
【入選】	秋の日や堰かば錦の水のある	恩田 富太
	魯山人時に八一が籐の椅子	菅瀬 陽子
	一吹きの水を得て虫籠は	矢野 孝久
	糊代を持たぬ形代流しけり	坂上佐久良

「ご縁ブック2015」「2016年手帖」お申込みありがとうございました!

本年も、多数のお申込みをいただきありがとうございました。「ご縁ブック2015」は12月上旬、「2016年手帖」は11月下旬の発送を予定しています。いずれもお楽しみに!

スタッフの一言

Q. 運動会で好きだった競技は何ですか? ※秋らしくコスモスをしょっています



木戸 敦子
レッツダンス! で意中の先輩に順番が回ってくるか…というドキドキ感もあったけど、やはり選抜リレーの「ここで抜かれてはいけない!」という緊張感と高揚感、心臓バクバクでした。



古川久美子
騎馬戦とか、男子だったら棒倒し! 割と、荒々しい競技に出たいタイプ。でも、基本的に運動会は好きではない…。



菅 真理子
選抜リレー。本人と同じくらい張り切った父が、練習をつけてくれたことが思い出深い。とにかく緊張したけれど、実は好きだったかも。足きり縄跳びや大玉送りも楽しかったなあ。



山田 千秋
フォークダンスです。運動は苦手でしたが、フォークダンスのステップは大好きでした。マイムマイムやオクラホマキサー、忘れないステップですね。また踊ってみたいです。



木伏美恵
選抜リレー、部活対抗リレーです。あだ名がアラレンちゃん(アニメ)で、走る時は砂けむりがたつと言われていました。運動会の締め民謡流しは学校全体で盛り上がりました。



上村真智子
徒競走はいつもビリ…小学校の頃は、運動会が嫌いで雨が降るのを祈っていた。そんな私も、中学生以降は応援団で目立つことを発見!!! 衣装を着てダンスして声をからして応援した!!



金子ゆり子
運動会という紅白の玉入れに夢になっていました。それにパン食い競技だったみたいです。上位になると鉛筆とかノートを賞品としていただけました。



石山由希子
運動音痴です。短距離も長距離も「参加することに意義がある」と励まされ、一回だけ障害物競争で3位に。初めてリボン(に安全ピンがついている)をもらったことは忘れ難いメモリーです。



吉田 瞳
学年選抜リレーです。昔から赤組は勝つというジンクスがあり、リレーで赤組だと毎回勝っていた記憶があります。今でも子供の運動会でリレーを観るのが大好き! 毎回感動して泣いています!



食欲の秋食欲旺盛! 特に栗とアイスには目がないの。ゆづき4歳2ヶ月♠

●プロフィール

1968年東京都生まれ。
1997年「開放区」に入会。1998年『婚姻届』で第44回角川短歌賞最終候補。
2003年第一歌集『ガーデニア・ガーデン』を刊行。現在「未来」所属。



詠み人の『リレーエッセイ』

じゅじゅじゅおじいさんのこと

錦見映理子

十年ほど前から、ヨガを習っている。

東京の銀座にあるヨガスタジオで、生徒はほぼ女性ばかりだ。そこでよく見かけるおじいさんがいる。いつも一番後ろの壁際にマットを敷いて、オレンジ色のTシャツ姿。頭は禿げあがっていて、耳のあたりに少しだけ生えている髪はすっかり白い。中肉中背の、他の場所では見えにくく目にも留まらないだろうその人は、クラスが始まるとものすごく目立った。

呼吸がひどく激しいのだ。先生の指示で体を動かし始めて間もなく、まるで全力疾走の最中のような、はあはあと激しい息づかいが、教室中に響き渡った。いったい誰？ 前の方にいる数人が、さりげなく振り返る。まだ始まったばかりで、体をゆるめるための簡単なポーズをとりながら、みんな静かに深い呼吸をしている。先生の指示もゆっくりだ。「息を吸いながら両手を上に」と言う先生に従って、みんな音もなく静かに腕を上げる。と、背後からおじいさんの「はあはあ」という荒い息づかいが響いてくる。次に先生が「腕を前後に開いて、息を吐きながら右脚だけ一歩前に」と言うのに合わせて、みんないっせいに静かに動く。と同時に、「うー」というおじいさんの苦しげな声がある。大丈夫なのか？ あのひとつ、こんな調子でついでに行けるのか？

さらにポーズが難しくなるにつれて、おじいさんの呼吸はますます激しくなり、次第に「はあはあ」から「ごうごう」に変わっていった。時折うめき声まであげている。ヨガをしているときは、普段より呼吸を深く、ゆつくりと行う。心しずかに、自

2回目の錦見さんのエッセイは、前回のおばあさんに続きおじいさんのこと。無用な人など一人もいない、生きているだけで価値がある、ということに改めて感じました。おじいさん、勇気を与えてくれてありがとうございます!!

分の体に集中する時間なのだ。なのに、私はおじいさんのたてる音が気になって、その日は全然集中できなかった。

それから毎週、そのおじいさんを同じクラスで見かけた。彼の呼吸の音に気を散らさずにすむように、私は一番離れた反対側の壁際に、マットを敷くように心がけた。

そうして一年ほど経った。

私はおじいさんの激しい息づかいが聞こえることに、すっかり慣れた。彼が休むと、クラスはとても静かで、なんだか物足りない気持ちになった。そのうちにいつの間にか私は、いつもおじいさんの隣にマットを敷くようになった。難しいポーズのときに、隣のマットから、激しい呼吸や苦しげなため息などが聞こえてくると、私もがんばろうという気分になるのだ。隣にいと、無理なときは壁に手をつけて何とかポーズを完成させていることや、体がひどく硬いのを、時おり紐を使って補っているらしいこともわかってきた。周囲がおしゃれなヨガウェアに身を包んだ女性たちばかりであることや、自分だけ呼吸が激しいことなど、彼は全く気にならないようだった。それどころではないのだ。息をすることと動くことだけで、彼は精一杯なのだ。

この一年でいつの間にか、おじいさんの呼吸はずっと深く、だいぶ静かになった。名前も知らず、ひとことも言葉を交わしたことがない彼の、少しずつ変わっていったその息の深まりを、一人で仕事している夜などに、ふと思ひ出したりする。

息ながく鳴く鳥のゐる木末よりときをり白き花びら落つる

外塚 喬『山鳩』

2015. 10. vol.82 (2015年10月10日発行/隔月発行)
●発行・印刷/株式会社ミュージズ・コーポレーション
〒950-0801 新潟市東区津島屋7-29
TEL 025-250-9555 FAX 025-250-9550
0120-819-395
e-mail odp@eseihon.com / HP http://www.eseihon.com
郵便局口座番号 00530-4-81370 口座名 株式会社ミュージズ・コーポレーション

編集後記

うだるような暑さを乗り越えたご褒美かと思うほど、秋の空気はどこまでも澄み、空は高く清々しい。五感がクリアになった錯覚すら覚える。どこまでも行けるような、行けるところまで行ってみたいような旅情にも誘われる。「人生は旅」とよく言われる。生老病死は避け得ないが、最近周りで見ると「病」が増え戸惑っている。ならない方がいいのかもしれないが、なったことでより深みと輝きを増す人生もあるのかも、と想像する。必要な試練などと軽率には言えないが、「喜怒哀楽」の読者の方はじめ、人生の先達の生き様を見聞きするとそう思える。乗り越えてほしいと願う。(木戸敦子)